

日本最大の山城、高取城



高取城の歴史を知ろう！

高取城の概要

高取に初めて城が築かれたのは南北朝期と言われています。奈良から吉野へと通じる交通の要衝として、芋峠を抑える重要な役割を担っており、地元の土豪越智氏が拠点としていました。越智氏は別に貝吹山城に本城(※2)を構えており、当時の高取城は越智氏の一支城(※3)に過ぎませんでした。また当時の構造は、現在見られる高石垣や、姫路城や大阪城にあるような天守はなく、山の地形をならして曲輪(※4)を築き、それを幾段にも連ねて逆茂木(※5)や、にわか造りの板扉で防御する中世の城郭であり、いわゆるカキアゲ城(※6)でした。

天正8年(1580)、織田信長による「城割(※7)の命が下り、大和国は郡山城を残し他の城はすべて破却することになりました。しかし同12年、大和国を治める筒井順慶は、郡山城の詰の城(※8)として高取城を定めて改修を行っていました。その後筒井氏が伊賀に移されると、代わりに大和国に入った羽柴秀長は、筒井氏同様に高取城整備を継続し、その時城主であった脇坂安治に代わって家臣の本多利久を入城させると、同17年に高取城の大改修を命じました。この本多氏の頃に近世城郭として、高取城は大きく様変わりすることになっていきます。記

録によれば、本多俊政が文禄2年(1593)朝鮮出兵の役から帰国した後に再築城したと伝わっています。徳川の世になった後も本多氏は引き続き高取城に入り、慶長5年(1600)には二万五千石に増加されました。

三代で本多氏が断絶すると、寛永17年(1640)徳川家譜代の家臣であった植村家政が、本多氏と同石高の大名として入り、高取藩初代藩主となりました。植村氏は将軍家光より、城の修理が必要な時は届け出をしなくても勝手に行ってよし(城山由来賞書)と、特別な待遇をもって高取城を任せられることとなります。以後、明治維新まで十四代の長きにわたって植村氏による高取藩が存続しました。

明治4年(1871)の廃藩置県の結果、全国の多くの城郭が廃されることとなり、高取城も同6年入札が行われました。城の大部分が取り壊し、または売却されました。しかし、子嶋寺に移築された二の門や、土佐小学校の校門を経て現在は児童公園に移築されている松の門など、ごく僅かですが城の遺構が現在も伝えられています。また絵葉書に残る明治20年頃に撮られた写真では、太鼓櫓や半左衛門櫓などの建物や城壁が、役目を終えて自然に朽ちていく様子が見られます。現在は高取城内には建物はありませんが、壮大な石垣を眺めることができます。

高取町の南東部に聳える標高583.6mの高取山には高取城が建てられていました。城下町の麓(札の辻)からの比高は446mで近世城郭(※1)では日本一の高低差を誇ります。全国屈指の名城であり日本三大山城の1つにも数えられています。

日本三大山城とは

日本を代表する山城として、いつしか日本三大山城と呼ばれるようになり、高取城をはじめ、幕末期までお城が機能しており、それぞれが日本一たる特徴を持っています。



備中松山城 岡山県高梁市内山下1
臥牛山(がぎゅうざん)上に全国的にも珍しい、江戸時代の天守(国指定重要文化財)が現存します。



美濃岩村城 岐阜県恵那市岩村町城山
岩村藩の藩庁であった岩村城は、近世城郭の山城としては標高721mと屈指の高さを誇ります。

ありし日の高取城の姿をCGで再現しました。奈良産業大学(現奈良学園大学)によるプロジェクトです。

※1【近世城郭】16~17世紀に築かれた一般に知られる城。※2【本城】本拠地の城。※3【支城】拠点防備の城。※4【曲輪】城内の区画された空間。※5【逆茂木】木の枝を逆立つように立てる防御施設。※6【カキアゲ城】堀を掘った土で土塁を固めた城。※7【城割】不要な城の破却命令。※8【詰の城】戦闘時の城。

高取城の構造を知ろう！

高取城全域を把握することは、広大さと山中の高低差もあり非常に困難です。幕末期の記録では、概ね黒門をくぐった内部を「郭内」と呼び二の門から三の丸・二の丸・本丸を含む部分を「城内」と区別されていました。「郭内」の周囲はおよそ七里余(約28km)にも及び、その面積は約6000万㎡にもなります。まさに日本一の山城です。未整備である場所も多く、お城めぐりは整備された「城内」を中心に散策しましょう。この図は、2013年にヘリによる航空レーザ計測が行われ、それを立体表示した赤色立体地図(※)です。山中にあるお城の造形や構造が非常に分かりやすくなっています。

※赤色立体地図とは：等高線図では表現できない線と線との間の地形も全て表現することができかつどの方向から見ても一方が影で覆われてしまうことがない表現方法。



●高取城赤色立体地図(測量・作図：奈良県立橿原考古学研究所、アジア航測株式会社、2013年)



幕末の天誅組との攻防に活躍した高取藩の大砲(レプリカ)です。司馬遼太郎氏の『おお大砲』に登場するブリキトース砲をモデルにしています。



高取城の別所郭跡に植村家の菩提寺、宗泉寺(そうせんじ)が建てられています。写真は同寺境内にある(左から)六代家道と七代家久のお墓です。

高取城年表

| | |
|-------------|--|
| 元弘2年(1332) | 越智邦澄、高取城を築城し南朝に加担する。 |
| 永享10年(1438) | 越智家経、吉岐別所(いきべっしょ)に殺され、高取城落城。 |
| 天文元年(1532) | 一向一揆勢が高取城を攻めるも越智氏、筒井氏・十市(といち)氏の援軍を得て撃退。 |
| 天正8年(1580) | 織田信長の命により廃城。 |
| 天正11年(1583) | 越智家秀の死により越智氏滅亡。筒井家臣、松倉重政が入城。 |
| 天正12年(1584) | 筒井順慶により修復。 |
| 天正13年(1585) | 脇坂安治、次いで豊臣秀長家臣、本多利久が高取城主となる。 |
| 慶長5年(1600) | 関ヶ原の戦いが起こる。松倉重政ら西軍が高取城を攻めるも撃退。本多俊政は二万五千石加増される。 |
| 寛永14年(1637) | 本多氏断絶により、その後本郷庄左衛門・川勝丹波守・小出伊勢守・桑山修理亮らが城番を勤む。 |
| 寛永17年(1640) | 植村家政、二万五千石で高取城主となり、家壺まで14代続く。 |
| 寛永19年(1642) | この頃より正保2年にかけて城主居所を二の丸から下屋敷へ移転させる。 |
| 元禄11年(1698) | 家敬、菩提寺となる宗泉寺を創建する。 |
| 万延元年(1860) | 高取藩、大坂近海の警護を命ぜられ出兵。 |
| 文久3年(1863) | 高取藩、天誅組を烏ヶ峰にて撃退する。 |
| 明治元年(1868) | 家壺、十四代藩主となる。 |
| 明治2年(1869) | 版籍奉還。家壺、高取藩知事となる。 |
| 明治4年(1871) | 廃藩置県により高取県が誕生、高取城は兵部省の管轄となる。 |
| 明治6年(1873) | 高取城の入札が実施。二の門、松の門などの移築、解体がはじまる。 |
| 大正4年(1915) | 高市郡役所により本丸に「高取城址」の石碑が設置される。 |
| 昭和28年(1953) | 高取城、国史跡に指定される。 |
| 平成16年(2004) | 松ノ門の一部が児童公園に復元される。 |
| 平成18年(2006) | 財団法人日本城郭協会によって日本100名城に選定される。 |

高取藩主・植村氏の功績
高取藩主として明治期まで続いた植村氏は、徳川家譜代の家臣です。徳川家がまだ松平姓を称し、三河国の一土豪に過ぎなかった頃より御国衆と呼ばれた三河武士は、苦節を共にし、何度も困難を乗り越え、そしてついに天下を制して徳川政権の基礎を築きました。そんな御国衆は、松平氏発展の時期に従い、岩津(愛知県岡崎市岩津町)譜代・安祥(愛知県安城市安城町)譜代・岡崎譜代に区分され、植村源三郎持益は安祥城の松平長親(家康より四代前に仕えた安祥譜代でした。天文4年(1535)植村氏明は、松平清康(家康の祖父)に従い、織田信秀(信長の父)との合戦のために尾張国森山(愛知県名古屋守山区)にいました。この時、清康は陣中にて家臣の阿倍弥七郎に殺されるも、氏明はすぐさま弥七郎を討ち取り、主君の仇を報じました。この出来事

は森山崩れとよばれています。この後、勢いを得た織田信秀が三河国に攻め寄せますが、氏明は陣頭に立ち、抜群の武功をあげました。しかしその後同11年、杏掛の一戦にて松平広忠(家康の父)を救い殿軍をつとめたのですが、あえなく討死となります。広忠が近侍岩松蜂弥に斬りつけられようとした時には、その場で蜂弥を組み伏せるなど、何度も主君の窮地を救いました。広忠からは「当家随一の武功忠節の者」として称えられ、一文字を家紋としました。元来土岐氏の定紋である桔梗紋を使っていた植村氏でしたが、桔梗を半分にした、現在伝わる「丸」に一文字「家」を名乗ることとなったのです。

- 植村家歴代高取藩主**
- ① 家政 藩祖。大坂の陣に従軍。高取城二万五千石を賜う。
 - ② 家貞 家政の三男。弟政春に三千石を分与。
 - ③ 家言 家貞の次男。兄政成が病弱の為、家言を継ぐ。
 - ④ 家敬 家言の長男。政成の長男。家言の養子となり家言を継ぐ。
 - ⑤ 家包 家敬の弟。政春の孫。
 - ⑥ 家道 家敬の四男。
 - ⑦ 家久 家道の長男。
 - ⑧ 家利 家道の四男。奏者番、寺社奉行などを兼務し、若年寄から老中に昇格。
 - ⑨ 家長 家道の次男。奏者番、寺社奉行などを兼務し、若年寄から老中に昇格。
 - ⑩ 家貴 家長の長男。
 - ⑪ 家教 家貴の次男。兄家道の養子となり家言を継ぐ。
 - ⑫ 家興 家教の子。家貴の養子となり家言を継ぐ。その年に死去。享年十九。
 - ⑬ 家保 家興の子。家興急死のため養子に。文久3年(1863)天誅組を撃退。
 - ⑭ 家壺 本多忠頼の子。明治の版籍奉還により高取藩知事に。同4年廃藩。



高取城の最大の魅力は、高い山上に累々と残る石垣や石塁でしょう。
おおよそ
大手筋から登ってその石垣に出会った時の感動は実際に体験した方でないといわれない貴重なものです。
『ええR高取町』アプリを使えば、かつての高取城を3DCGで再現した姿と見比べることができ、より一層楽しむことができます。

アプリ『ええR高取町(※詳細はP10を参照)』を起動し、このページ全体をお手持ちのスマホ・タブレットでかざすと、高取城の3DCGをお楽しみいただけます。また、図面内のARスポット(オレンジのアイコン)ではその場所の再現CG画面が現れます。

●高取城縄張図:高田徹氏(城郭談話会)の作図に彩色



④太鼓櫓(たいこやぐら)・新櫓の石垣
本丸の手前に配置された特徴的な石垣です。昭和47年度に修復されました。この上に太鼓櫓・新櫓が建てられ堅牢な構造となっていました。



③七つ井戸
高取城の裏手(搦め手・からめて)側の急な斜面には七つ井戸と呼ばれる石垣造の井戸を四つ見られます。山城では水の確保が要となります。



②本丸の高石垣群
高取城の本丸は大天守・天守・三層櫓群を多聞櫓(長屋状の櫓)で繋ぐ壮大な構えでした。今も高石垣が連なります。写真は鐘(あぶみ)櫓台です。



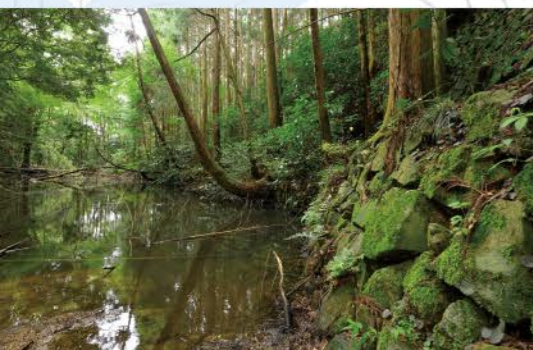
⑤国見櫓(くにみやぐら)からの眺望
かつて国見櫓と呼ばれる二層造りの櫓が建っていた場所からは、その名にふさわしく大和を一望できるかのような眺望が楽しめます。



③七つ井戸の石垣
七つ井戸のある斜面には石垣が連なるように築かれています。下から見上げると、新櫓(しんやぐら)台まで巨大な高石垣のように錯覚します。



②本丸虎口の石垣
城の出入口を虎口(こぐち)と呼びますが、最も厳重な形式が樹形虎口(ますがたこぐち)です。本丸の樹形虎口は城内でも特に強固です。



⑥水堀
二の門の左脇に、山城には珍しい石垣造の水堀が現在も水を湛えています。水量が増量すると奥の谷部に落とす工夫も見られます。



500

0 100m



⑦猿石
愛嬌のあるお猿さんの謎の石像です。近隣の明日香村でも類似の石像が見つかっています。

- くまわ さくへいち 曲輪・削平地 城の区画
- 石垣 斜面を石積みで固めたもの
- 切りざし 人工的に加工された斜面
- からほり ほりきり 空堀・堀切 敵の制限・遮断する為の堀
- せきいり どるい 石垣や土で固めた城壁
- みずぼり 水堀・井戸 山城には珍しい水堀遺構
- 崩落部 風雨によって土砂が崩落した箇所
- 簡易トイレ ARスポット 解説スポット

※整備が十分ではない箇所もあります。
足元に注意しながら安全にお城散策をしてください。



①本丸天守台の石垣
城内最大の高さ(約12m)を誇る圧倒的な天守台石垣。かつて三層の天守が建っていました。現在の趣ある苔むす石垣の姿も魅力があります。



①天守台穴蔵(あなくら)入口の転用石
高取城の石材には古墳の石棺が使用されています。どこにあるか転用石を探してみてください。



① 下屋敷
山麓に移された藩主住居です。城下を見下ろす高台に位置します。現在は農地となっています。



② 総門脇の土塀
下屋敷を少し下ると、総門と呼ばれる長屋門がありました。現在は石碑と土塀が残っています。



③ 植村家長屋門
高取藩の家老・中谷家の長屋門。現在は旧藩主植村家の住居となっています。海鼠壁(なまこかべ)が特徴的で、県指定文化財です。



④ 田塩家長屋門
白壁、腰部に下見板を張る武家屋敷の長屋門。装飾性と監視や防御を兼ねた出格子窓と与力窓(よきまど)を2つ持っています。



⑤ 松ノ門
高取城の廃城時に土佐小学校に移築され、昭和19年火災にて一部焼失し、残存部が近年児童公園に復元されました。



⑥ 夢創館(むそうかん)
呉服商を改修した観光拠点(お土産販売・休憩所)。高取城の日本100名城スタンプもここで押すことができます。



⑦ 石川医院
かつての藩主下屋敷の表門が、石川医院に移築されて現存しています。



⑧ 土佐街道の街並み
全長約2kmにも及びます。高取城大手筋に続く旧城下町の街並みが今も味わえます。



⑨ 子嶋寺(こじまでら)
真言宗高野派。室町期に衰退しましたが高取城主の庇護を受け今日に至ります。山門は高取城二ノ門の移築で、貴重な高取城現存遺構です。



⑩ 永明寺(えいめいじ)
真宗本願寺派。山門は、高取城の城門を移築されたものと伝承されています。



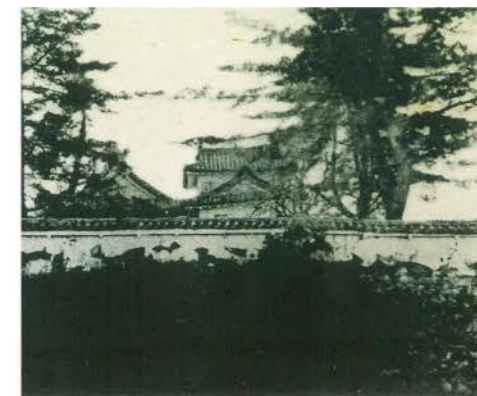
日本の山城
大高取城

高取城の城下町を訪ねてみよう！

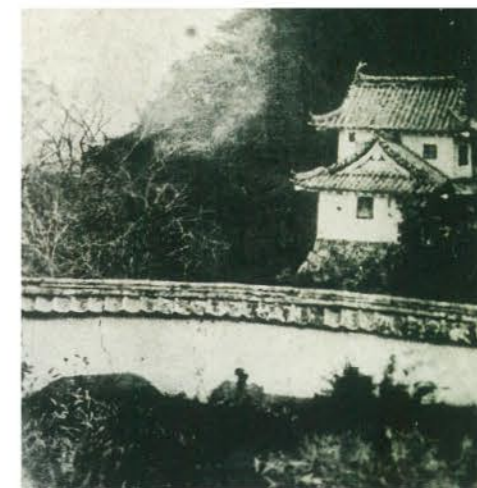
当初は山上の二の丸や城内にあった藩主住居や家臣屋敷は、次第に麓に移動してくるようになります。近鉄「壺阪山」駅を降り、国道169号線を渡って100メートルほど進むと北西から南東に延びる旧城下町の佇まいが今もよく残されています。豊臣秀吉の吉野桜見の途次に高取の茶屋に立ち寄ったことから、高取城下の発展が始まったと伝えられています。高取城の大手筋へと続く一本道となっている土佐街道の町並みは、れんじこうし 連子格子(出格子)や虫籠窓むしこまどなどの造形を持つ、二階建ての町家が軒を連ねます。しちやしき 移築された藩主の下屋敷表門や家臣屋敷の長屋門も残されており、歩きながら散策を楽しむことができます。付近には高取城に関連した遺構やスポットも多くありますので、山上でのお城歩きのを癒しつつ、余韻に浸ることができます。

往時の高取城を想像しよう！

往年の高取城の建物の姿を伝えるものとして、明治年間に撮影された古写真が数点残されています。また城内建物に使用されていた鯰や瓦なども保存されています。



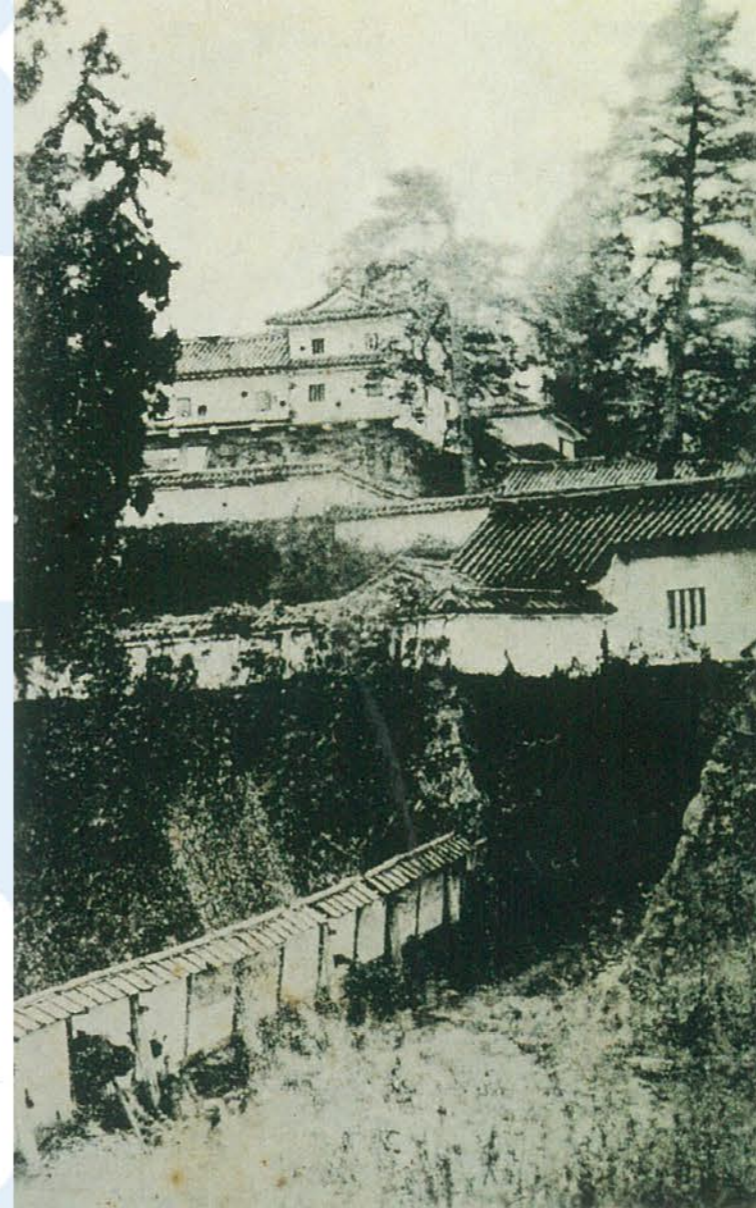
■高取城古写真
壺坂口より望んだ二ノ丸の一部です。(個人蔵)



■高取城古写真
大手門より望んだ半左衛門櫓(はんざえもんやぐら)です。(個人蔵)



■高取城の軒丸瓦(のきまるがわら)と軒平瓦(のきひらがわら)
高取城の建物に使用された瓦です。(高取町教育委員会 蔵)



■高取城古写真
三ノ丸城代屋敷より望んだ、竹櫓(たけやぐら)、太鼓櫓(たいこやぐら)、十五間多聞櫓(じゅうごけんたもんやぐら)、新櫓(しんやぐら)の往時の姿です。(個人蔵)



■高取城櫓に使用された鯰
明治の高取廃城後、近年まで移築現存していた櫓に使用されていたものです。元禄8年(1695)の銘があります。(高取町教育委員会 蔵)

高取城の再現CGアプリで楽しもう！



スマホかタブレットから上のコードを読み込むか、

ええR高取町

と検索して、各アプリストアよりアプリをダウンロードしてください。

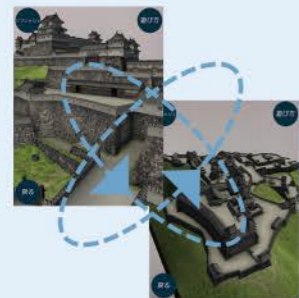
「ええR高取町」とは

「ええR高取町」は、高取城を中心に高取町を楽しむための、スマートフォン・タブレット専用のガイドアプリです。下記の手順にしたがってダウンロードしてお楽しみください。

推奨端末/iOS7.0以降、Android4.0.3以降(全ての端末での動作を保証するものではありません)。

高取城をCGで再現

かつての高取城は、大天守、小天守をはじめとする、白漆喰の建物群が建ち並び「異高取雪か」と見れば、雪でござらぬ土佐の城と謳われました。そんな往時の高取城を「ええR高取町」では3DCGで再現しました。アジア航測株式会社のレーザ測量(4ページ参照)などを参考にしています。本パンフレットの縄張りや現地と比較して、思いを馳せてみてください。



表示された高取城CGは、指で自由に動かせます。詳しくは「遊び方」ボタンを参照してください。最初から始める場合は「リフレッシュ」ボタンをタップしてください。



再現3DCG画面



■AR高取城

AR高取城をタップして画面が切り替わったら、本パンフレットの5ページ、もしくは裏表紙の上記アイコンをかざしてください。高取城の3DCGが現れます。

ダウンロードしたアプリアイコンをタップすると起動します。



高取町の公式サイトへ移動します。



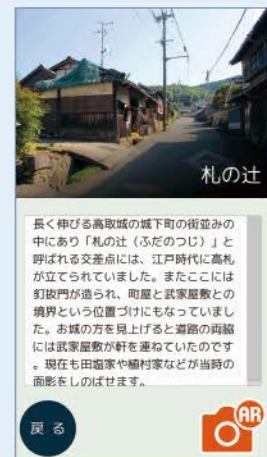
記念撮影画面

■見所マップ

見所マップ画面や、本パンフレットの5～8ページ記載図の高取城、及び大手筋付近には、ARスポットと解説スポットがあります。その場所の解説か、再現CG画像が現れます。



見所マップ画面



解説ページ画面

高取城復元CGが自由な角度で楽しめます。(作画：ユーザックシステム株式会社)
※2ページの奈良産業大学(現奈良学園大学)作画のCGとは異なります。

